

NPO 法人

北見文連

会報 第9号

発行日：令和2年8月12日(水)

発行者：NPO法人北見文化連盟

理事長 平野 温美

事務局：北見市北4条東4丁目11-2

Tel.0157-22-0099

う。冬から新型コロナウイルスの感染が全世界に拡大し、生活全般に影響をおよぼしています。小学校から大学までの教育や、世界経済を直撃しています。

NPO法人北見文化連盟の事業も発足来初めてという状況に遭遇しました。まず、念入りに計画した今年の市民大講座を中止しました。そして夏の文化交流会も。次の懸案は文化の日の総合芸術祭です。コロナの動向と皆さまの心の動向を見極めなければなりません。

このような中、日々いかがおすごしですか。各グループや団体の営みは何らかの変化を余儀なくされいると推測します。世の状況は



…なくして、なんの人生かな

NPO法人北見文化連盟 理事長 平野温美

令和二年は歴史に残る年になるの
でしよ

「…なくして、なんの人生か」
最近よく見る表現に、上記の
「…なくして、なんの人生かな」
声で自問自答していただきたい
思います。

英語表現になる No, no life があります。〜に自分の大切な事柄を入れるわけです。Danceを入れると「踊りのない人生って考えられない」。それぞれの分野で日々活動しておられる文化連盟の皆さんは迷いもなく発現されるでしょう。大声で唱えてパワーを得て前進して下さい。明けない朝はありません。一堂に会する日を切に待つております。

理事長	平野 温美	(北見文学会)
副理事長	大場 稔康	(北見写真協会)
副理事長	今本 一成	(北見文学会)
副理事長	高橋千恵美	(北見市華道連盟)
専務理事	本見 研介	(北見合唱連盟)
理事	角田 優	(北見市民謡協会)
理事	渡辺 清治	(オホーツク岳風会)
理事	田尾勢津子	(踊翠流剣詩舞鶴双会)
理事	金山真由美	(北見書道連盟)
理事	加藤 幸子	(清踊会)
理事	松本美年子	(オホーツク岳風会)
理事	大泉 梅代	(北見市華道連盟)
理事	堀 隆二	(北見市民謡協会)
理事	佐藤 麻弥	(北見合唱連盟)
監事	川原真佐子	(北見市華道連盟)
監事	齊藤 正	(カラオケクラブSONGS)

『文芸北見』 営営と五十年

北見市立図書館での「文芸北見発刊五十年展」



一九七一年（昭和四六年）二月四日世に出た『文芸北見』は、二十世紀後半三十年、二十一世紀二十年をほぼ毎年刊行し続け、去る七月一日第五十号を発刊した。

この文芸誌は、文芸同人誌とは異なり、オホーツク管内の住人、出身者およびゆかりのある高校生以上の方々を対象に公募する。年一回発行の地域文芸誌であり近年は毎号百五十名から百六十名が原稿を寄せている。

インターネットの普及で世界が均一化する時代、オホーツク海に面したこの土地独自の視点に立つ数々の作品は、新鮮で魅力がある。特に本誌は郷土の歴史や文化をテーマにした作品がほぼ毎号発表され伝統となっている。一日発行の第五十号には、管内外から延べ百六十二名が投稿した。創作、紀行、地域史、随筆、詩、短歌、俳句、川柳などの六百九十四作品と、記念号として実行委編集部が依頼した十八名の十八作品が掲載されている。

発刊五十周年を記念して、北見市立図書館において「文芸北見発刊五十年展」を二週間開催した。展示の中核は、創刊号から第五十号まで、全号五十冊の陳列である。それら一冊一冊の表紙絵は、地元画家の力作揃いで見応え十分である。

来場者は、各冊子を手にとって内容を調べたり読むことができ、多数の見学者がページを綴っていた。



五十誌陳列の背後にはパネル三枚に、創刊号から五十号までの歩みが年表として掲示され、半世紀に及び刊行事業には、幾多の紆余曲折を経て今日に到っていることが分かる。文芸北見の「北見」は「北見の国」を指す。これからも営営と刊行されていくだろう。

冬芽の土壤からの「文化花」

第52回北見文化賞授賞式

辻直孝市長様、北見市教育委員会教育長志賀亮司様よりご祝辞を賜り、踊翠流

見支部の華麗な祝舞「ピアソン通り」が披露された。

志賀亮司教育長様の祝杯で盛大な祝賀会となり、受賞者それぞれの鍛錬された書道・華道・詩吟の披露もあり、出席者一同受賞者を祝福し今後とも地域文化向上のため



文化の普及と発展に永年尽力され、その功績が北見地域の文化史に確たる足跡をのこされた方、更なる活動が期待される方が受賞されました。

第五十二回北見文化賞授賞式十一月三日(日・祭) 午後六時北見市民会館で行われた授賞式には、ご多忙の中ご臨席いただいた



冬芽の魂

※フラダンス体験会《レイアロハフラ北見》

○日時 八月二十日(火)

○会場 北見市武道館

幅広い年代の方十五名に楽しんで踊ってもらうことができ、入会希望者があり後日のレッスンから新しい仲間が増えました。

※いけばな展《北見市華道連盟》

○日時 八月二十九日(木) から九月一日(日)

○会場 J R 北見駅構内

野外制作を平成二十八年から始まり、今年は多くの市民の皆様にご活躍下さることを願って幕を閉じた。

【北見文化賞】北見合唱連盟

昭和三十三年に結成した。団体の育成と合唱技術向上のため合唱講座・北見合唱祭などの活動を行い、市民や合唱団体の音楽文化向上に貢献している。



見て頂ける様に北見駅構内を会場に「実りの秋」をテーマに幅約1.5m×高さ2.5mの作品を制作し、約九百五十名の方に鑑賞頂きました。

【北見文化賞】ふだん記と自身史・さいはてグループ

本年は創立四十年を迎え全国的にも長い歴史を持つグループである。自由きままに書きつづることが、人々の共感を得る特徴となっている。

※舞台劇はなのき村公演《北見おやこ劇場》

○日時 九月五日(木)
○会場 北見市民会館小ホール
舞台劇はなのき村を通して子ども達が、人と人のつながりの大切さを感じて貰うことができ日々の生活に生かされることを願い同作品を公演した。



※短歌新墾秋期研修大会《新墾北見支社》

○日時 十月六日(日)
○会場 パラボ六階クリスタルルーム
助言者の別紙内容の講談は、参加

者の大きな糧となり参加者一人一人が提出した詠草を、お互いに読み合った。明るく、笑顔の会は短歌愛好者に幅広く周知させたいほど充実した研修大会であった。



※民謡・歌謡チャリテイション《北見市民謡協会》

○日時 十一月十七日(日)
○会場 北見市民会館小ホール
会員らが練習の成果を披露。子ども民謡教室や子ども会員の元気な歌声にはひととき大きな拍手が贈られた。また、太鼓合奏、三味線合奏を披露し伝統文化を普及することができた。

※第五十二回吟道錬成大会第四十六回合吟コンクール第十九回連吟コンクール《オホーツク岳風会北見支部》

○日時 十一月十七日(日)
○会場 ホテルロイヤル北見
日本伝統芸能である詩吟への親しみ、理解を図り、会員以外の参加者を得て会員増強や伝統芸能継承に寄与することができた。練習の成果を発揮し、競吟を行うこと



写真提供：経済の伝書鳩様

により吟技の向上を図ることができた。
※北見写真協会写真展《北見写真協会》

○日時 十二月十八日(火)
○会場 パラボ六階市民ギャラリー

全国展入賞・入選作品を展示し来場者から写真の表現や技法など様々な質問があり市民との交流ができた。

※北見LC若獅子新春子ども書き初め大会《北見書道連盟》

○日時 一月十一日(土)
○会場 北見市立体育センター
幼稚園児から高校生まで百十五人が参加し、北見書道連盟会員の先生方から指導を受けて、大きく元気な文字を大筆で書いていた。

